



2012-13

週報



パワー浜松ロータリークラブ事務局
〒430-7733 浜松市中区板屋町111-2
オークラアクティホテル浜松4307号室
Tel/Fax 053-452-0800

Email info@power-hamamatsurc.jp
http://www.power-hamamatsurc.jp
創立/2002年10月22日 RI承認/2002年11月27日
認証伝達式/2003年4月29日
スポンサークラブ/浜松中RC



RIテーマ「奉仕を通じて平和を」会長/田中作次(八潮RC)
2620地区のテーマ「クラブは自ら活性し、お互いのつながりを実感しながらロータリーを伸展させよう」
ガバナー/高野孫左エ門(甲府RC)
パワー浜松RCのテーマ「固く結ぼう心の絆、分かち合おう総ての仲間と」会長/小澤邦比呂

第488 回例会6月4日(火)AM7:30~8:30

オークラアクティホテル浜松4F平安の間 ■司会:寺田洋平・木村満義

■点鐘:小澤邦比呂 ■ロータリーソング:夢のみずうみ

■青少年交換留学生 ルトガー メイヤーさん・米山記念奨学生 蔡遣さん

出席
報告

85名中62名73.80%
前々回修正出席率75.29%

会長挨拶

ロータリアンの皆さんおはようございます。本日はいつもと会場を変えての例会です。本日は京丸園の鈴木厚志社長にお越し頂きましたので卓話をいただきます。楽しみにしていました。

物事は「受け取り様」であります。このような歌があります。残念ながら本日はオンステージではありませんが。(笑い)『手を打てば はいと答える 鳥逃げる 鯉は集まる 猿沢の池』これは奈良の興福寺に五重塔があり、五重塔の姿が猿沢の池に映ります。奈良八景の中でも有名な大変風情のある有名な景色です。この池の湖畔にはたくさんの宿屋があります。この宿屋に泊った旅人は、女中さんと呼ぶためでしょう、パンツパンツパンツと手を打ちました。女中さんは階段を上ってきて「はいなんでしょう」と御用を聞きに来ます。宿屋の屋根にとまっていた鳥は、その音にびつくりして驚いて逃げます。そして猿沢の池の鯉は大好物の麩をもらえんと思っ集まってきます。手を打った音には変わりはないわけですが、それを受け止める人の心によってとらえ方は千差万別です。

人間はそれぞれの心の受け取り様で幸せを作ったり、不幸を作ったりします。人の心はコロコロ変わるから「心(こころ)」と言うのだそうです。そして、ひとつの物事の受けとり様で私たちは幸せもあり、不幸せも出てくるのではないのでしょうか。受けとり様で「幸せ」があるのならば、私たちは心の中に幸せと取れる心を育てる必要があるのではないのでしょうか。感謝や喜びは人を幸せにするでしょうし、不平や不満は決して人々を幸せには出来ません。

女優の十朱幸代さんには20歳になる柴犬がいます。人間でいえばとうに100歳を超えています。この犬は十朱さんをお母さんとして慕っており、朝晩の散歩が大好きだそうです。散歩の際は、一歩足を出すたびにヨロヨロ、そして一歩出すたびにヨロヨロという歩き方をします。ある人はこの犬を見て「何だ、この老犬は。ヨロヨロと歩いて通行のじゃまだな。迷惑だ。」という人がいます。また、ある人は「今日も散歩ができてよかったね。また散歩ができるように頑張って長生きしようね。」と言う人もいます。

受けとり様は様々です。心の中で幸せと受け取れる人は、きっと周りの人々を幸せにすることができ、自らも幸せになることができるでしょう。私たちもそういった心を持ち続ける事が大切なのでないでしょうか。

『手を打てば はいと答える 鳥逃げる 鯉は集まる 猿沢の池』

幹事報告

- ①秋山雅弘会員、小粥勝好会員、森島宏光会員、松田徹夫会員、鈴木和浩会員、三枝潤也会員の6名の退会が承認されました。
- ②ただ今、新会員2名の公示中です。
- ③事務局のコピー機複合機の入替を予定しています。取扱いのある会員の方は応札願います。
- ④静岡ロータリーアクト主催のバザーに小澤会長と村田誠会員より寄付をいただきました。
- ⑤レターケースに「ロータリーの友」「ガリバー月信」を配布しました。出席率が85%を超えました。

スマイル報告

小澤邦比呂

6月1日付けで、当クラブメンバーであります滝浪實会員が浜松市医師会の新会長に選任されました。地域医療をより充実させる為に益々のご活躍をご期待申し上げます。おめでとございました。

鈴木孝尚

鈴木厚志様、本日はお忙しい中、卓話を頂き誠にありがとうございました。我々ロータリアンの基本でもある職業奉仕の日々の実践において、貴重な学びとなりました。心からお礼申し上げ、鈴木様の益々のご活躍を祈念致します。

滝浪 實

先日、浜松市医師会長になりました。浜松市に生まれ、育ち、一生をこの浜松市で過ごせてよかったと思える医療を届けていきたいと思えます。

不良歯医者4人組

今日は、6月4日むし歯予防デーです。最近歯医者に行っていない人は、是非一度歯医者さんに足を運んでみてはいかがでしょうか？むし歯を治して一生、自分の歯で食べられる事はすばらしい事です。歯を守って口福になりましょう。不良歯医者4人組より愛をこめて！



2012-13

第488回例会
6月4日(火)



パワー浜松ロータリークラブ事務局
〒430-7733 浜松市中区板屋町111-2
オークラアクティホテル浜松4307号室
Tel/Fax 053-452-0800

Email info@power-hamamatsurc.jp
http://www.power-hamamatsurc.jp
創立/2002年10月22日 RI承認/2002年11月27日
認証伝達式/2003年4月29日
スポンサークラブ/浜松中RC



京丸園株式会社〔担当:職業奉仕PL〕 鈴木厚志社長の卓話 『心を耕す』



皆様こんにちは、只今ご紹介をいただきました京丸園の鈴木厚志です。

宜しく願い致します。自己紹介させて頂くと、私は13代目の農家で、元々は庄屋とか地主ではなく、4代前までは土地も無い小作の農家でした。

4代前のおいちゃんにあたる人が農業をやるなら土地を持たなくてはと、土地を購入して現在農業をしている歴史を持つ農家です。10年前法人化して、京丸株式会社として、農業法人として現在9期目となります。まずは、どのような農業なのかを知って頂くために、テレビで紹介されましたのでご覧下さい。(ビデオ映像)

ビデオで見て頂いたように水耕栽培を中心に農業をしており、現在NPO法人を立上げ事務局もしています。

ユニバーサル農園として、障害を持った方との出会いがあり、その中で経営が変わってまいりました。

経営理念は、『笑顔の創造』笑顔は人と人の和の始まりとして、とにかく目の前にいる人達をどれだけ笑顔が作れるかを一つの理念として取り組んでおります。現在、全従業員は役員も含めて67名の組織になりました。農業は人数の少ない家族経営が多い中で、67名を抱える農業法人は、まだまだ珍しいのではないかと思います。また、特徴として最高齢者が81歳、一番下が17歳、80代~10代まで全ての世代がフルラインナップで働いております。これは農業という産業の一つの特徴だと思っていて、いろいろな方が参加できる職場であるのが農業の特徴だと思っており、そういう会社を作りたいと思っています。いろいろな方がいて、一つの仕事を、力を合わせて形作ろうという中で、障害を持った人たちもおります。障害を持った方が21名、

身体や精神などいろいろな障害を持った方が、一緒に働いております。平均年齢44、4歳、障害を持った方の割合が、31%で3人に一人が何らかの障害をもっております。また最初の頃は、杖を突いた方や乳母車を引いた方が集まるので、高齢者施設と思われるぐらいの農園でした。なんでこういう農園になったかといいますと、30歳の頃に障害をもった方との出会いがありました。農業は、手数が欲しいのでパート募集をするのですが、なかなか理想とする方が来てもらえないのが現状でした。なぜかと言いますと、なかなか希望の給料を払う事が出来ない為でした。この低い給料で来て下さるのは、高齢者が障害を持った方しか来てもらえなかったのです。高齢者に働いて頂くのはイメージできても、障害を持った方に働いてもらうのは想定できませんでした。この為、障害を持った方が応募に来てもずっと御断りしていました。中には障害を持ったお母さんから、『私も働きますので、一緒に雇ってもらえませんか?』とか、『給料は要らないから働かせてくれないか?』などの申し出をいただきましたが、すべてお断りしておりました。

本来、働くとは、給料を稼ぐために働くと思っているのに、給料がなくてもいいからというのは理解できませんでした。こんな方が何人も来る中で、福祉施設に勤めている友人に、この話をしたら理解できるという事でした。それは、障害を持った子供が、産業の世界に行けないとなると、次に行く場所は福祉施設しかなく、出来るだけ産業界に身を置く事で自分の力が何の役に立って、その対価が貰えるのと、福祉施設でお世話になるようになるのでは、まったく違うと言う事です。

働く事の意味を考えさせられました。それは彼らはお金ではなく、役に立ちたい事が先で、その役に立った事で対価をいただける、それが給料という考え方でした。本来、その考え方が正しいのではないかと、最近思えるようになってきました。最初は、手探り状態だったので、1週間だけ研修として入っていただいたら、パートさん達が、彼らをサポートしてくれました。職場の雰囲気も朗らかになってきました。雰囲気が良くなることで効率が上がってきました。これはボランティアではなく経営者として良い会社が出来ていく気がしてきました。家族経営の農園から毎年一人ずつ障害者を増やすことで現在の規模になりました。

ユニバーサル農園の定義は、単に障害者を雇用することではなく、農業と福祉というキーワードを融合して、新しい農業産業が出来ないかと言う事です。つまり『福祉の為の農園ではなく、農業経営における幸せの追求』です。障害者は、産業界に身を置けるか、福祉施設に入るか、はっきり分かれてしまっている。この分かれ目のラインを少しも下げる、産業界で活躍できる人達を増やす事が大切ではないかと思っております。

現在障害者の多くは、大手企業や工業界や商店界で働いていて、農業界で働くというキーワードは今までほとんどありませんでした。障害者が働く事で、産業界で福祉も担える事が出来れば、増え続けている福祉予算を減らす事が出来れば、日本の農業の価値も上がり、障害を持った方も社会に参加できる。そんなデザインが作り出せる事が一つの夢として活動しています。

この取り組みを広く広めるために、日本産業カウンセリング学会の中で毎年発表しております。

その内容は、『本当に障害者雇用や企業内メンタルヘルスへの取り組みは企業利益に繋がらないのか?』を題材にしております。

『Constructive Living』と言うカウンセリングを活用したメンタルヘルスの取り組みのプログラムを行っております。

農業は、障害者を活かしやすい産業である。農業は、人に合わせて仕事を作り出すことができる新たなビジネスの創造人を活かす仕事という観点で、人から産業をデザインする産業があってもいいのではないかと思います。

今日はありがとうございました。